

令和7年度

美 術

この試験問題は持ち帰ることができます。

なお、本問題で利用した著作物は、著作権法第36条により、
試験の目的上必要と認められる限度において複製したものです。
同目的以外の利用はできません。

(長野県教育委員会)

受験 番号					氏 名	
----------	--	--	--	--	--------	--

(美 1)

【問1】 次の（あ）～（お）に当てはまる語句を、「中学校学習指導要領」（平成29年3月）第2章 第6節 美術 に即して、書きなさい。

第2 各学年の目標及び内容〔第2学年及び第3学年〕

2 内容

B鑑賞(1)イ

(イ) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、（あ）や文化のよさや美しさを感じ取り（い）を深めるとともに、（う）の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通した（え）や美術文化の継承と（お）について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

【問2】 修学旅行の思い出を水墨画で表現する中学校第3学年の表現と鑑賞の関連を考えた題材を構想した。次の問いに答えなさい。

(1) 題材を始めるに当たり、指導する内容を明確にした。次の（あ）～（え）に当てはまる語句を、「中学校学習指導要領」（平成29年3月）第2章 第6節 美術 に即して、書きなさい。

第2 各学年の目標及び内容〔第2学年及び第3学年〕

2 内容

A表現(1)ア

(ア) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの（あ）の世界などを基に主題を生み出し、単純化や（い）、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

B鑑賞(1)ア

(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の（う）や表現の（え）と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。

(2) 指導計画の作成と内容の取扱いにも配慮した。次の（お）と（か）に当てはまる語句を、「中学校学習指導要領」（平成29年3月）第2章 第6節 美術 に即して、書きなさい。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(1)ア

(ア) （お）や空間の効果、立体感や遠近感、量感や（か）などを捉えること。

(3) 題材の最初に、表現の工夫を観点に水墨画で描かれた2つの作品を鑑賞する場を設けた。下の作品1と作品2の作者名を漢字で書きなさい。

(4) 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて表現方法を追求していけるよう、水墨画の技法を体験する場を構想した。次の（き）～（し）に当てはまる最も適切な語句を語群1から選び、記号で書きなさい。

- ・（き）とは、筆の穂に濃墨、中墨、淡墨を同時に含ませて描く方法。一筆の中にグラデーションが生まれる代表的な調墨法である。
- ・淡い墨の画面が乾燥しないうちに濃い墨を加え、立体感や質感を出す表現方法を（く）という。
- ・最初に描いた墨が完全に乾いてから、墨を重ねて描く表現方法を（け）という。
- ・輪郭線を描かずに、墨の濃淡で対象を描く表現方法を（こ）という。
- ・（さ）は物の輪郭を線によって表現する方法で白描法ともいう。
- ・筆に水分を少なく含ませ、擦るようにしてかすれを出す表現方法を（し）という。

語群1： A 破墨法 B 没骨法 C 潤筆法 D 渴筆法 E 合筆法
F 宿墨法 G 三墨法 H 敲筆法 I 積墨法 J 片墨法
K 先水法 L 鉤勒法

作品1「天橋立図」

京都国立博物館蔵

作品2「松林図屏風」（右隻）

東京国立博物館蔵

〔問3〕 感情やイメージを抽象的に彫刻に表す題材を構想した。次の問いに答えなさい。

- (1) 彫刻の制作方法について検討した。(あ)と(い)に当てはまる最も適切な語句を書きなさい。
粘土のような可塑性のある材料で形をつくることを(あ)といい、木や石などを彫り出して形をつくることを(い)という。今回は、主に粘土を用いて制作する題材とした。
- (2) 制作に使用する粘土や道具について検討した。

- ① 次の(う)～(き)に当てはまる最も適切な語句を語群1から選び、記号で書きなさい。
 - ・(う)粘土は、水で練った粘土であり、乾燥すると硬くなるが、水を加えると軟らかくなる。主に白土や(え)土などの種類がある。
 - ・(お)粘土は、乾燥すると他の粘土に比べて透明感が出る。
 - ・(お)粘土や(か)粘土は、色を練り込むことができ、乾燥後に着色することもできる。
 - ・(き)粘土は、そのままにしておいても硬くならない。

〔語群1 A 軽量 B 油 C 土 D 樹脂 E 赤 F 緑 G 青 H 紺〕

- ② 制作に使用する用具の準備について、次の(く)と(け)に当てはまる最も適切な語句を語群2から選び、記号で書きなさい。
一般的に粘土の加工に使用される鉄べら、かきべら、(く)べらを、クラスの人数分用意することにした。また、陶芸に使用する成形用かん、たた板、切り糸、切り(け)なども用意し、生徒が用具の効果を試し、必要に応じて使用することができるようにした。

〔語群2 A かし B くす C ひいらぎ D つげ E 弦 F 弧 G 弓 H 蔓〕

- (3) 生徒が、抽象的な彫刻作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えることを通して、自分の主題を生み出していくことができるよう、題材の最初に抽象彫刻作品の鑑賞場面を設けることを構想した。提示する作家や作品について調べた次の文の(こ)～(そ)に当てはまる最も適切な語句を語群3から選び、記号で書きなさい。

- ・作品1の作者である(こ)は、(さ)やシュルレアリスムなどの活動を展開し、作品1のような有機的な抽象形体の作品を生み出した。
- ・作品2の作者である(し)は、この作品の他、「(す)」などの彫刻作品を残した。
- ・作品3の作者である(せ)は、幾何学的形体を組み合わせ、バランスの原理と動力や風力を利用して動く彫刻である(そ)を制作した。

作品1	作品2	作品3
「雲の牧人」	「黒い太陽」	「ファブニールドラゴンII」

〔語群3 A イサム・ノグチ B ジャン・アルブ C ジョアン・ミロ D アレクサンダー・カルダー E 接吻の門 F エナジー・ヴォイド G 横たわる人体 H ダダイズム I ミニマリズム J ウィーン・アクションイズム K インスタレーション L スタビル M モビール〕

- (4) 生徒が表したいことを抽象的な形に表現することができるよう、抽象化について考え合う活動を構想した。

- ① 作品4～作品7を生徒に提示することにした。これらの作品を制作した作家の名前をカタカナで書きなさい。
- ② 作品4～作品7の作者は、「(た)は芸術の(ち)ではないが、ものごとの真の感覚に近づいてゆくと、知らず知らずのうちにそこにたどり着く」と語っており、この言葉を生徒に提示しようと考えた。

作品4	作品5	作品6	作品7
「マイアストラ」	「黄色の鳥」	「(つ)」	「マイアストラ」

(た)と(ち)に当てはまる最も適切な語句を語群4から選び、記号で書きなさい。

〔語群4 A 単純さ B 複雑さ C 自然さ D 滑らかさ E 模倣 F 始まり G 目的 H 魅力〕

- ③ 作品4～作品7について、制作年が古い順に左から並ぶように作品の番号を書きなさい。
- ④ 作品6のタイトル(つ)に当てはまる最も適切な語句を語群5から選び、記号で書きなさい。

〔語群5 A 概念の鳥 B 時間の鳥 C 時空の鳥 D 空間の鳥 E 量塊の鳥〕

(美 3)

〔問4〕 伝統工芸品を鑑賞する授業を構想した。各問いに答えなさい。

工芸品 1	工芸品 2	工芸品 3	工芸品 4	工芸品 5
箱根寄木細工	燕鋤起銅器	南部鉄器	甲州印伝	大館曲げわっぱ

(1) 工芸品 1～工芸品 5 の名称を語群 1 から選び、記号で書きなさい。

語群 1 : A 佐久間灯笼 B 輪島塗 C 江戸指物 D 山鹿灯笼 E 豊岡杞柳細工
F 一位一刀彫 G 駿河竹千筋細工 H 川中島塗 I 二風谷イタ J 江戸切子

(2) 工芸品 6～工芸品 10 について、次の問いに答えなさい。

- ① 工芸品 6～工芸品 10 に、最も関係のある都道府県名をそれぞれ書きなさい。
- ② 材料、つくり方、特徴、機能性について確認した。次の (あ) ～ (お) に当てはまる最も適切な語句を、語群 2 から選び、記号で書きなさい。
 - ・工芸品 6 は、様々な木材の自然な色や木目を組み合わせて模様がつくられている。最初に木材の板材を寄せ合わせて美しい模様のもとになる「種板」をつくる。この「種板」を、(あ) で削って小箱などの木製品に貼り付け、箱根寄木細工が完成する。
 - ・工芸品 7 は、一枚の平らな (い) を鋤で叩いて曲げ、立体的な形に仕上げている。
 - ・工芸品 8 は、茶釜を小ぶりにして、つると口を付け、片手でも湯を注げるように改良したのが始まりだと言われ、手軽さから広く用いられるようになった。鑄型が固まらないうちに、型押し棒で一つ一つ押し当てて (う) という模様を付けることが特徴である。
 - ・工芸品 9 は、染色された鹿革の上に型紙を重ね、(え) で「トンボ」「小桜」「青海波」などの模様を付けてつくられる。
 - ・工芸品 10 に使われる杉は、年輪の幅がほぼ同じ間隔になっているので、年輪に対して直角に切ると木目がほぼまっすぐに並ぶ。軽く、余分な水分を吸収する性質があるので、ご飯を入れる弁当箱やおひつなどに適している。また、工芸品 10 のつなぎ目には (お) の皮でぬい合わせる「榊ぬい」が施されている。

語群 2 : A 漆 B 化粧板 C 雪輪 D 金属板 E 彫刻刀 F ヤマザクラ
G あられ H ベンガラ I ミズメ J シラカバ K 樹脂板 L かんな

〔問5〕 配られたモチーフ（ペットボトル、和紙、発泡スチロール球）を組み合わせる構成し、それぞれの形・質感・明暗をとらえて、鉛筆で画用紙にスケッチしなさい。

- ・画面にバランスよく構成すること。
- ・配られたモチーフは、すべて使うこと。
- ・画用紙は、縦長・横長どちらの向きでもよい。
- ・使用する鉛筆と消しゴムは、配られたもののみとする。

(美 1)

受験 番号					氏 名	
----------	--	--	--	--	--------	--

解答例

令和7年度

美術解答用紙

得 点	
--------	--

筆 記	実 技
--------	--------

〔問1〕 計15点 各3点

あ	伝統	い	愛情	う	諸外国
え	国際理解	お	創造		

〔問2〕 計20点 (1)(3)各2点, (2)(4)各1点

(1)	あ	心	い	省略	う	心情
	え	意図				
(2)	お	余白	か	動勢		
(3)	作品1	雪舟	作品2	長谷川等伯		
(4)	き	G	く	A	け	I
	こ	B	さ	L	し	D

〔問3〕 計20点 (1)(2)(3)(4)各1点 ((4)③は完答で1点)

(1)	あ	塑造 (モデリング)	い	彫造 (カービング)			
(2)	①	う	C	え	E	お	D
		か	A	き	B		
	②	く	D	け	G		
(3)	こ	B	さ	H	し	A	
	す	F	せ	D	そ	M	
(4)	①	ブランクーシ					
	②	た	A	ち	G		
	③	4 → 7 → 5 → 6					
	④	つ	D				

〔問4〕 計20点 (1)各1点, (2)①各2点, ②各1点

(1)	工芸品1	I	工芸品2	J	工芸品3	G	工芸品4	B
	工芸品5	D						
(2)	①	工芸品6	神奈川県	工芸品7	新潟県	工芸品8	岩手県	
		工芸品9	山梨県	工芸品10	秋田県			
	②	あ	L	い	D	う	G	
		え	A	お	F			

〔問5〕 (画用紙に描写) 計25点

〈採点基準〉①～⑤の各項目を5段階で評価し、合算する。
 【観点】①形 ②質感 ③明暗 ④画面構成 ⑤総合的な表現力